

兵庫教育大学言語表現学会

2024 年度研究発表会・第 44 回総会

## プログラム・要旨集・総会資料

期日：2024 年 12 月 1 日(日)

会場：兵庫教育大学 共通講義棟

## 兵庫教育大学言語表現学会 2024 年度研究発表会・第 44 回総会

参加費：無料

会 場：兵庫教育大学 共通講義棟 108・106・104・102

※講演のみ Zoom によるオンライン

主 催：兵庫教育大学言語表現学会 (<http://gengo-hyogen.org/wp/>)

後 援：兵庫教育大学

○受付(9:50～) 共通講義棟 1 階ロビー

○研究発表(10:20～14:20) [1件につき、研究発表 25 分、質疑応答 10 分][接続準備等 5 分]

第 1 会場 共通講義棟 108 教室

1	10:20-10:55	宮内 亜紀	英文学作品を使用した高校 2 年生英語コミュニケーション II の指導実践
2	11:00-11:35	左海 里帆	英語でのスピーチ活動における高校生の意識や態度の変化
	11:35-12:20	<b>昼食休憩</b>	
3	12:20-12:55	國末 直美	外国語活動における音あそびとシンセティック・フォニックス指導の実践
4	13:00-13:35	岡本 真砂夫	小学校外国語科における英語プロソディ指導の効果
5	13:40-14:15	堂本 佳樹 森安 祥平	STEAM 教育における中学校英語の実践と提案

第 2 会場 共通講義棟 106 教室

1	10:20-10:55	山内 隆史	小学校低学年における批判的読みを取り入れた説明的文章の指導に関する研究
2	11:00-11:35	片岡 慎介	読者を意識した物語創作の学習指導に関する研究 —錯時法を用いて—
	11:35-12:20	<b>昼食休憩</b>	
3	12:20-12:55	和田 友見	「語りの作為性」に着目した読みの更新を促す学習デザイン
4	13:00-13:35	前野 翔大	文章理解における児童の因果推論を支援するための反実仮想的アプローチ
5	13:40-14:15		

第 3 会場 共通講義棟 104 教室

1	10:20-10:55	鳴戸 宏太	中学 3 年生を対象とした Kahoot! を用いた英語の語彙・表現の学習効果
2	11:00-11:35	村上 奈菜葉	動画を活用したスピーキング学習の実践研究
	11:35-12:20	<b>昼食休憩</b>	
3	12:20-12:55	藤原 あずみ	認知的に共感して読む文学教材の学習指導 —走れメロスの場合—

4	13:00-13:35	佐々木 豊	児童に、「詩」を書かせることは、詩を書く児童の「生きる力」となり得るか
5	13:40-14:15		

第4会場 共通講義棟 102 教室

1	10:20-10:55	NGUYEN THI MY	「牛」と「水牛」を含むことわざの日越対照研究
2	11:00-11:35	鄔 瓊	日本語学習者のための ICT を活用した協働学習効果の考察
	11:35-12:20	<b>昼食休憩</b>	
3	12:20-12:55	西川 波那	主体的な学びを生み出す授業実践の考察 — 『伊勢物語』 「芥川」・ 『源氏物語』 「小柴垣のもと」を中心に—
4	13:00-13:35	田中 愛友美	『たまきはる』 「萱の御所の火」に見える建春門院の連想 — その虚構性と時間設定に着目して—
5	13:40-14:15		

○休憩＋総会準備 (14:15～14:35)

○総会 (14:35～15:05) 共通講義棟 106 教室 (第2会場)

○講演 (15:20～16:50) 共通講義棟 106 教室 (第2会場) Zoom オンライン

「言語学者、小学生に音声学を教えたみた」

講師 川原 繁人 先生 (慶応義塾大学言語文化研究所 教授)

○閉会行事 (16:50～16:55) 共通講義棟 106 教室 (第2会場)

○懇親会 (17:00～18:30)

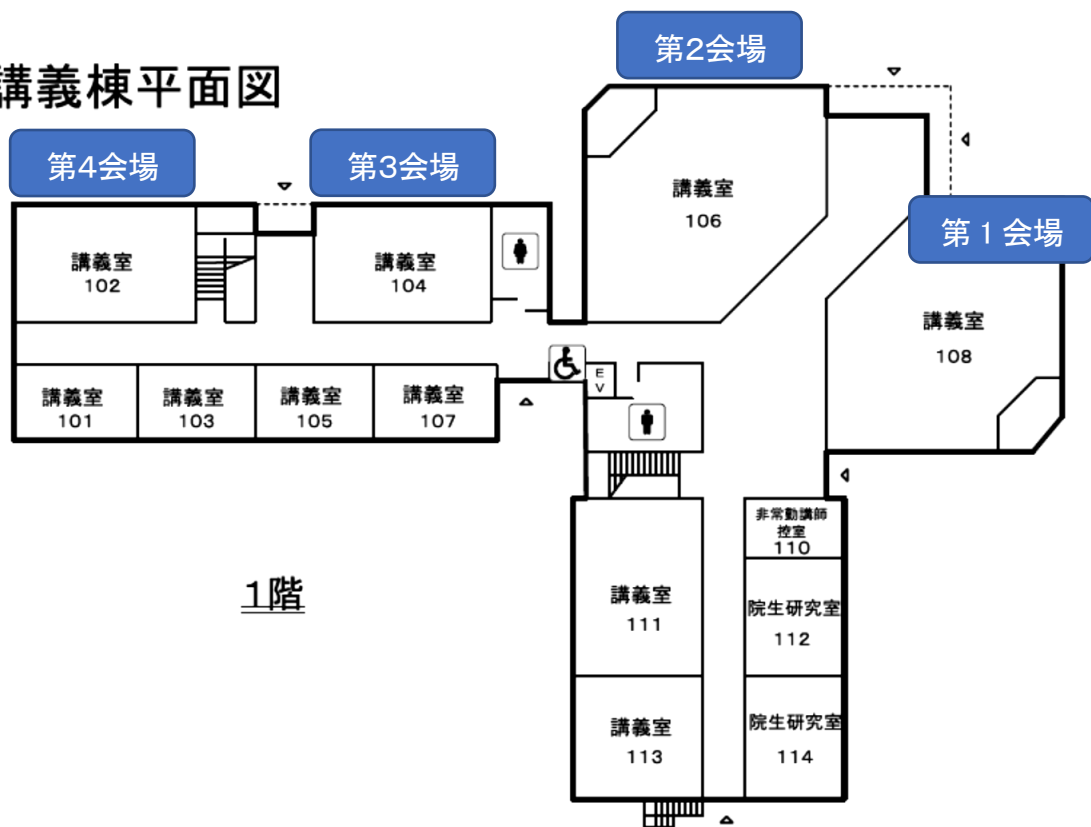
※発表者の方で当日発表資料がある場合は、指定されたアップロード先に電子ファイルをアップロードしてください。紙媒体の印刷は不用です。

※当日の発表資料置き場は下記の URL と QR コードです。

<https://www.dropbox.com/scl/fo/uvjmwiyypjlaotj2ms4prf/ABaBIO2KxuxpDjUoaGypnGk?rlkey=e0ygw9gi0ejyz0dfu6nv9b2qe&st=lgfa8cnk&dl=0>



## 共通講義棟平面図



### ○研究発表要旨

#### 第1会場 108 教室

#### 英文学作品を使用した高校2年生英語コミュニケーションⅡの指導実践

兵庫教育大学大学院言語系（英語） 宮内 亜紀

近年、学校現場での英語教育では、コミュニケーション重視の授業が多く展開されていることから、以前に比べて文学作品を題材にする割合が大幅に減少している。しかし、発表者自身は、学生時代に文学作品を読むことにより語彙や文法を自然に学習でき、異文化や多様な英語表現への理解が深まる経験をした。こうした文学作品の持つ価値に注目し、授業に取り入れることで、生徒の英語力向上や学習意欲の向上が期待できると考える。本研究では、文学作品が英文法や語彙学習に及ぼす影響と、加えて異文化理解を助ける役割について分析し、高校の英語授業における効果的な導入方法を探る。実践研究では、高校2年生の「英語コミュニケーションⅡ」において、文学作品 Alice's Adventures in Wonderland を教材に使用した。生徒に文学作品への興味を持たせると同時に、英語文法への理解を図りつつ、英語学習への動機付けを促すことを主な目的とした。本研究を通して、英語教育に英文学作品を取り入れる価値を再評価し、教育現場での活用の可能性を考える。

#### 英語でのスピーチ活動における高校生の意識や態度の変化

学習指導要領の第6節ディベート・ディスカッションⅡには「統合的な言語活動を通して「話すこと〔発表〕」や「書くこと」についても適宜扱い、スピーチやプレゼンテーションなどの、専門科目としてふさわしい内容を取り扱うことも求められる」と記載されている。先行研究からは、スピーチやプレゼンテーションなどの活動に取り組みさせることが、英語力向上には有効であることが示されている。一方、高校生が実際に英語スピーチに臨む際の心理的な側面については、十分な研究がなされていない。そこで、本研究では、令和6年5～6月に、兵庫県内の公立高等学校の英語授業に発表者自身が参加し、スピーチ活動および校内のスピーチコンテストに臨む2年生（N=7）の意識や態度の変化を記述、分析した。その結果、技術の向上の他、高校生のスピーチ活動に対する意識や英語という教科への態度の変化などの実態が明らかになった。

### 外国語活動における音あそびとシンセティック・フォニックス指導の実践

兵庫教育大学大学院言語系（英語） 國末 直美

小学校の外国語の授業において、英語の音および文字と綴りの関係を学習するフォニックスが、英語での読み書きの基礎を身に付けるのに有効であることがいくつかの研究で示されているが、本研究の目的は、小学校3年生を対象に、文字を使わずに音韻認識を高める活動（「音あそび」）をフォニックス指導に先行して指導することが、その後の音および文字と綴りを結びつける活動、すなわち、フォニックス指導の効果をより高めるかどうかを検証することにある。実践では、ある公立小学校の3年生の児童を「音あそび」を9回指導した後に「ジョリーフォニックス」の指導を14回実施した群（68人）と、最初から「ジョリーフォニックス」を14回指導した群（34人）に分けた。両群は、実践の事前と事後に、音韻認識と綴りに関するテストを受け、その結果が比較された。現在、両群のテストスコアの分析中であるが、発表では、対照群の事後テストまでを検討する。

### 小学校外国語科における英語プロソディ指導の効果

姫路市立高浜小学校 岡本 真砂夫

児童の英語発音の理解性を高めるため、プロソディに焦点を当てた授業を、帯活動の時間を活用して通年で実施した。自作したICT教材とフラッシュカード教材を用いて指導を実施し、新出表現の練習では、楽器のカホンを用いて反復練習に取り組みさせた。3学期からは、フラッシュカード教材に強勢、核、ピッチ変化が視覚的に理解できるよう、工夫を加えた。各学期末に、児童に3つの定型文を音読させ、録音したデータを用いて7名のALTによる理解性評価を行い、児童の英語発音の理解性の推移について検証した。また、同じ音声ファイルを用いて音響音声分析を実施し、児童の発音が音響的にどのように変容したか観察した。分析の結果、理解性評価が向上した。また、1学期から2学期にかけて発話率、2学期から3学期にかけてフォーカルプロミネンススコアが向上した。児童のピッチレンジに変化はなかったが、ピッチ変化は指導者に近づくことが確認された。

### STEAM教育における中学校英語の実践と提案

兵庫教育大学附属中学校 堂本 佳樹  
兵庫教育大学附属中学校 森安 祥平

STEAM 教育における中学校英語の実践とその実践を通して見えてきたことを提案する。STEAM 教育における英語科の先行実践はほとんど見られない中、附属中がその課題に取り組んでみた。教科書ベースのプロジェクト学習を展開することと TEAM 教育の目指す目標を照合してながらの手探りの実践であったが、それを通して STEAM 教育の中の英語科の立場がおぼろげながら見えてきた。その見えてきたことを具体化し、それを提案してみる。

## 第 2 会場 106 教室

### 小学校低学年における批判的読みを取り入れた説明的文章の指導に関する研究

兵庫教育大学大学院言語系（国語） 山内 隆史

批判的読みを取り入れた読解指導に関する意識調査をもとに、現場に広がっていない現状を把握する。これまでの批判的読みを取り入れた説明的文章の読解指導の先行研究を分析し、指導の観点や方法など、成果として明らかになってきていることと、課題について取り上げる。

参考実践の分析から抽出した、低学年における実施のポイントを押さえ、自身が取り組んだ実践について紹介する。

・筆者の発想を推論する ・資料活用の意図を考える ・具体例の順序性について考える

の三つの要素を取り入れた説明的文章の読解指導の実践を通して見えてきた成果と課題をもとに、批判的読みを取り入れた低学年の説明的文章読解指導について明らかになったことを報告する。

### 読者を意識した物語創作の学習指導に関する研究 —錯時法を用いて—

兵庫教育大学大学院言語系（国語） 片岡 慎介

本研究の目的は、小学校における「読者を意識した」物語創作の学習指導のあり方を提案することである。先行研究によると、従来の物語創作指導では、児童が特定の表現技法を用いて創作することを重視する結果、読者がどのように作品を受け取るかを意識することが不十分である現状が認められた。この課題を解決するために、本研究では「錯時法」を活用し、既存の物語を「書きかえる」活動を通して、児童が「読者を意識した」表現力を高めることを目指した。具体的には、授業の中で「読者の反応を意識して物語を書きかえる」「しかけ（錯時法）の効果を記述する」「書きかえた物語としかけの効果を読み合う」といった活動を 2 回にわたり実施した。兵庫県内公立小学校の 5 年生児童を対象に行った授業では、「錯時法」の理解と応用が深まるとともに、児童の「読者への意識」が高まる成果が得られた。

### 「語りの作為性」に着目した読みの更新を促す学習デザイン

兵庫教育大学大学院言語系（国語） 和田 友見

近年、文学テキストの「語りの作為性」に注目した読みの学習が重視されるようになり、学習者には語りに着目した読みの姿勢が求められている。

語りに着目した研究や実践は増えつつある状況だが、語り手の理解や語りの概念獲得にとどまっている。語り概念を獲得した上で、語りと対話することによってどのような読みの変化や解釈の更新があったのかなど、学習者に与える影響や効果まで追究している報告は十分ではない。語り手の存在を踏まえつつ物語内容を読み取り、それをもとに語り手の立場から作為性を読むことによって、自らの読みを再考する機会が必要である。

そこで、語り手概念の理解を前提とし、物語内容理解の問いと語りの作為性に着目した問いを組み合わせた学習活動を実施した。読みの交流でのプロトコルの分析を通して、物語内容の理解を深めるだけでなく、物語行為に着目し新たな問いを生み出す学習者や、語りの作為性に迫る学習者の姿を確認することができた。

### 文章理解における児童の因果推論を支援するための反実仮想的アプローチ

兵庫教育大学大学院言語系（国語） 前野 翔大

本研究は、文章理解における小学生児童の因果推論を支援するため、反実仮想的思考法を用いたアプローチを提案し、その効果の検証を目的とする。

研究の背景として、児童が物語文の大局的な因果関係に気づきにくい点に問題意識をもっており、その支援策として「もし～がなかったら…」という因果推論における反実仮想的思考法の導入を試みた。ここでいう反実仮想的思考法とは、「Aという出来事がなかったら、B という結果があったか」、あるいは「Aという出来事がなかったら、どの程度B という結果が変わっていたか」という問いを立てることで、原因の有無や因果的な効果の大きさの判断を支援する枠組みである。この枠組みを用いて身近な事象や物語内の因果関係を捉える指導を行った。その結果、(1)反実仮想的思考法は概ね児童に理解された上、(2)反実仮想的思考法を用いることで因果性の発見や理解の深化を促す可能性が示された。

### 第3会場 104 教室

### 中学3年生を対象としたKahoot!を用いた英語の語彙・表現の学習効果

兵庫教育大学大学院言語系（英語） 鳴戸 宏太

近年の学校教育において、ICT を活用した学習が盛んに行われている。英語教育においても、Kahoot!を用いた学習が生徒の情意面に与える影響について研究がなされているが、その学習効果については明らかでない。そこで本研究では、Kahoot!を用いた語彙・表現の学習効果について、テストとアンケートの両面から検証した。

中学3年生46名を対象に、2クラスをKahoot!群、フラッシュカード群に分けて実践を行った。生徒は高校入試に出てくる重要表現をKahoot!またはフラッシュカードで3回学習し、3回目の直後と2週間後にテストを受けた。また、活動に対する情意面を調査するアンケートも実施した。分析の結果、Kahoot!群の方が直後テストの正答率がより高かった。遅延テストでは、学習方法に関わらず、正答率が直後テストと比べて同じ割合で減少していた。アンケートでは、Kahoot!群の方がより意欲的に学習する

生徒が多かった。

### **動画を活用したスピーキング学習の実践研究 —授業内外の学習活動の連携を意識して—**

兵庫教育大学大学院言語系（英語） 村上 奈菜葉

小学校の外国語の授業において、言語活動の内「話すこと」にかける時間は多いとされている。しかしスピーキング指導において、英語を使う機会が不足していることから習った英語表現がなかなか身に付かないこと、多くの児童が英語を話すことに対して不安感や抵抗感を覚えていることが大きな課題として挙げられる。そこで、本研究では児童のスピーキング力とスピーキング学習に対する情意面の向上に効果的な指導法を探るべく、小学5年生を対象に授業内外の学習を連携させた指導を実践した。既習表現が復習できる内容のスピーキング動画を作成し、約1か月間児童は授業内及び授業外で動画を使って個別スピーキング練習に取り組んだ。実践前後で行ったスピーキングテストとアンケートの結果からは、英語表現の定着と児童のスピーキングに対する情意面の両方においてその指導の効果が見られた。

### **認知的に共感して読む文学教材の学習指導 —走れメロスの場合—**

兵庫教育大学大学院言語系（国語） 藤原 あずみ

本研究の目的は、中学生が文学教材を読む際の共感の定義と種類を明らかにし、それに基づく指導方法を検討することである。先行研究から、文学教材を読む際の共感の定義は登場人物の置かれている状況や心情が生徒と類似しているかどうかに基づいて判断されることが多いことが分かった。一方、心理学における共感の定義は、共感の過程とその結果生じる感情や相手に対する理解を含むことが分かった。

そこで、「走れメロス」を用いて、共感の過程に着目した実践を行った。この実践を通して、文学教材における共感をより広範に定義し、生徒と作品の類似性以外にも共感できる観点を見つけることを試みた。「走れメロス」は共感しにくい作品とされているが、授業内で登場人物の立場に立って考える発問を複数設定することで、生徒が自身と登場人物を比較し、登場人物に寄り添って考えることができた。また、登場人物に共感できる点と共感できない点を考える活動を通して、生徒の物語内容の理解が深まった。

### **児童に、「詩」を書かせることは、詩を書く児童の「生きる力」となり得るか**

兵庫教育大学大学院言語系（国語） 佐々木 豊

児童に、『詩』を書かせることは、詩を書く児童の『生きる力』になる」ということを「児童詩と『生きる力』」に関連する研究 関連の先行研究（含む・児童詩教育実践作品）から検討した。先行研究で検討された「生活綴り方の中の作品」「主体的児童詩の中の作品」「第3の児童詩の中の作品」から、創作児童詩には①「しなやかに生きていく力」としての「生きる力」、②「現実社会を変える力」としての「生きる力」、③「思考力・想像力、探究力」としての「生きる力」の3つの「生きる力」があることが分かった。本研究では、これらの3つの「生きる力」が、どのような創作児童実践により生み出されるのかを作品で示しながら明らかにしたい。



### 「牛」と「水牛」を含むことわざの日越対照研究

兵庫教育大学大学院言語系（国語） NGUYEN THI MY

本発表の目的は、日本語とベトナム語において「牛」と「水牛」を含むことわざを考察対象とし、両言語の考え方や生活習慣あるいは視点における共通点や相違点を明らかにすることにある。

ことわざは、伝統的な民族の経験や教訓または風刺の意味を含む短く易しいフレーズであり、異文化理解の「入口」としての役割を果たすことから、本発表では、ことわざの中でも、日本語とベトナム語とで興味深い対立関係を示す「牛」と「水牛」を取り上げ、その分析を通して、ベトナムと日本の文化や思考法あるいは価値観における共通点や相違点を明らかにし、ベトナム人日本語学習者が日本語文化を理解するのに役立つ事例研究とすることを目的とする。

具体的には、「牛」または「水牛」を含む両言語のことわざを、肯定的な意味と否定的な意味に大別しながら分析するとともに、「牛」や「水牛」と他の動物が共起することわざにおいて、それらの動物間にどのような関係があるかを明らかにする。

### 日本語学習者のための ICT を活用した協働学習効果の考察

兵庫教育大学大学院言語系（国語） 邸 瓊

令和5年度発表者が教育実習で行った中学校では、英語の授業において、Google Classroom が活用されていた。具体的には、「what day is today」に関する単語と文法を練習するにあたり、会話能力が弱い生徒はまずその回答例が説明されている Google Classroom の動画を見て、その後動画が提示する keyword に沿ってクラスメートと交流するということが行われていた。その結果、生徒は自分の考えを引き出したり、他人の観点を聞くことにより自身の考えを深めたりしているように見受けられた。また、Google Classroom を活用することにより、教師が生徒一人一人の質問に対応でき、ディスカッションがよりスムーズに進められている様子も観察された。

一方、同中学校の国語読解の授業では、Google Classroom が使われておらず、それにより生徒が積極的に授業に参加できない様子が観察された。

そこで本発表では、以上のことを踏まえ、日本語授業の特に読解・会話に関する協働学習において、効果的に Google Classroom を活用した授業を提案したい。

### 主体的な学びを生み出す授業実践の考察

#### —『伊勢物語』「芥川」・『源氏物語』「小柴垣のもと」を中心に—

兵庫教育大学大学院言語系（国語） 西川 波那

近年のある調査では、古典の授業に対する不満点として、文法、語法ばかりである、暗記ばかりであるといった意見が挙げられている。そこで、挙げられた不満点を解消しつつ、主体的な学びを生み出す授業について研究し、実践した。

実践では、高校1年生を対象に『伊勢物語』「芥川」を教材とし、全2時間授業を行なった。第1時

は、現代語訳と和歌を中心とした授業であった。第2時は、複数の資料との読み比べを中心とした授業であった。最後に課題として、和歌を男の気持ちになり、心情等を含めて自分なりに解釈させた。高校2年生を対象とした授業実践では、『源氏物語』「小柴垣のもと」を教材とし、1時間の言語活動に取り組んだ。文系は『伊勢物語』との読み比べ、理系はSNS風投稿の作成と実践した授業の内容を変更した。

他作品との読み比べや和歌の解釈、投稿を作成したり、ペア・グループワークを取り入れたりすることで主体的な学びを生み出したと考える。生徒の授業の振り返り記述等をもとに、主体的な学びを生み出す授業実践について考察する。

### 『たまきはる』「萱の御所の火」に見える建春門院の連想 ―その虚構性と時間設定に着目して― 兵庫教育大学大学院言語系（国語） 田中 愛友美

『たまきはる』は鎌倉期の日記文学として知られている。その作者健御前は建春門院、八条院、春華門院の三人に仕えており、晩年執筆した『たまきはる』はその女房生活を回顧したものである。その中には作者が建春門院に仕えていた頃に起きた萱御所の火災を描いた記事があり（以下「萱の御所の火」）、従前の研究において直後の記述との関連や、他作品と比較した際に垣間見える文学性が指摘されてきた。だが、この場面を中心に扱った研究はもとより、この場面に作品内の他の場面との関連と他作品との比較という両方の視点から迫った論考は未だ見当たらない。そこで本発表ではこの「萱の御所の火」についてその両方の視点から論じたい。同じ火災についてと見られる他作品の記述や他作品に見える別の火災についての記述との比較、『たまきはる』内の語彙の分析などを通し、この場面が『たまきはる』においてその設定や描写の面からも建春門院の回想の中に位置づけられることを明らかにする。